

経営比較分析表（令和4年度決算）

佐賀県多久市 多久市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	ド透訓	救臨災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
18,285	6,363	第2種該当	第2種該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

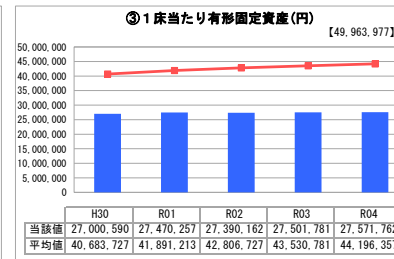
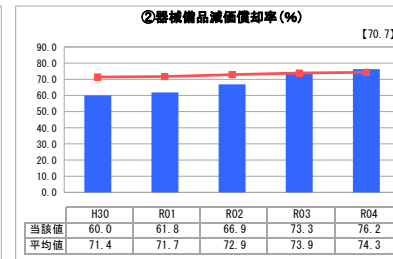
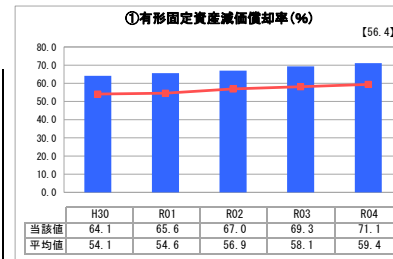
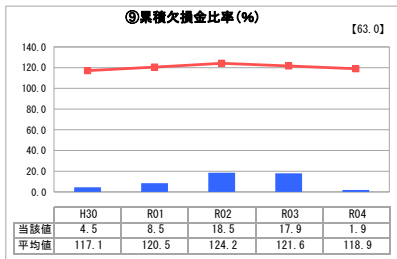
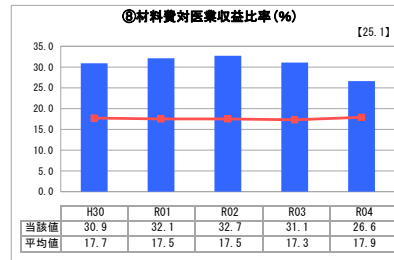
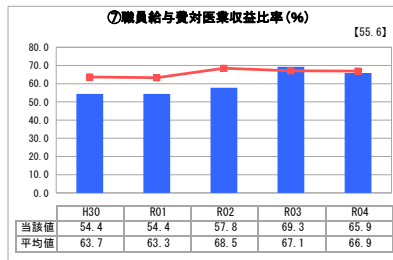
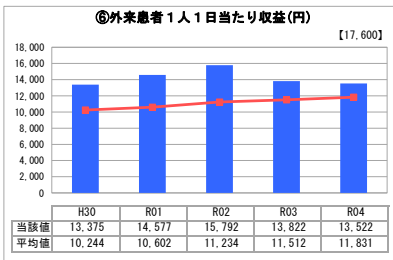
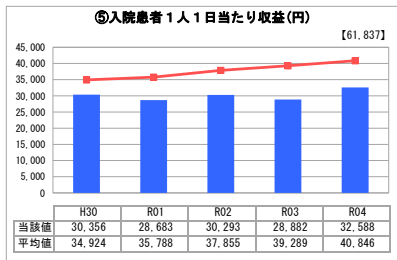
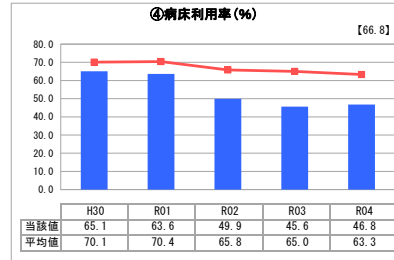
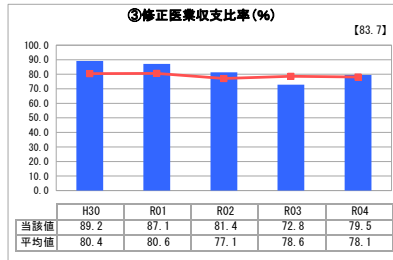
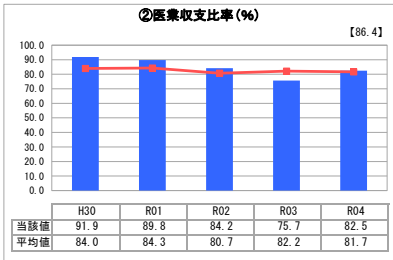
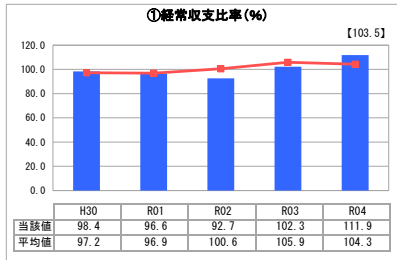
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
60	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	105
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
37	30	67

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

業務分化・連携強化 (業務の整理・ネットワーク化等含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

佐賀県の中核医療圏に属する、地域の中核医療施設の役割を担い、内科・整形外科を主な診療科目として、地域に密着した病院事業を展開している。病床数は一般病床60床（うち6床は地域包括ケア病床）、療養病床45床の計105床である。また、救急告示病院及び災害拠点病院等の指定を受けている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率「111.9%」の黒字は、新型コロナウイルス感染症対策「病床確保補助金」によるところが大きく、累積欠損金比率にも好影響を及ぼしている。ただし、医業収支比率「82.5%」、修正医業収支比率「79.5%」であり、他会計からの繰入金に依存している傾向に変化はない。しかしながら、前年と比較し、修正医業比率が「6ポイント強」、病床利用率も増に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下から脱し始めていることが推測される。職員給与費対医業収支比率、材料費対医業収支比率が改善していることも同様と考えられる。

2. 老朽化の状況について

器械備品減価償却率に加え、有形固定資産減価償却率においても「70%」を超え、いずれも老朽化が進んでいる。令和7年度の新病院開院が控えており、現病院における新たな設備投資を極力抑えつつ、現状資産の維持修繕により最大限の活用を努める。

全体総括

新型コロナウイルス感染症に係る各種補助金等は減少に転じていくことから、本来の病院経営への回帰を目指し、令和7年度の新病院開院に繋ぐことが必要である。医業収益向上には患者数増による医業収益増収、効率性確保による経費減少に努め、経営改善を図る。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。